

(技術名) チャイロマルハタとヤイトハタの成長比較							
(要約) チャイロマルハタは、種苗生産・二次飼育（孵化仔魚～約 100 日齢）、 <u>養殖前期</u> にはヤイトハタと同様に <u>成長</u> した。しかし、 <u>養殖後期</u> 3年目にはヤイトハタに比較してやや成長が遅いことが明らかとなった。							
沖縄県水産海洋研究センター石垣支所					連絡先	0980-88-2255	
部会名	水産業	専門	養殖	対象	チャイロマルハタ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

ハタ科魚類は高級魚種として扱われ、本県ではヤイトハタ養殖が行われ、生産量・生産金額とも増加傾向にあり、養殖現場から新たなハタ類養殖対象種が求められている。そこで、ヤイトハタと並ぶ大型種であるチャイロマルハタの養殖特性把握のため種苗生産から養殖までの成長を調べた。

[成果の内容・特徴]

生産履歴の明らかなハタ2種（表1）を陸上水槽（40kL）にモジ網（18kL）を張り、週2回配合飼料を飽食量与え、養殖前期（約400日齢）・後期（約1,000日齢）に分け成長を調べた。

1. チャイロマルハタは、種苗生産から二次飼育期間（87日齢）にかけ全長80mm以上に成長し、ヤイトハタと同様の成長をした（図1）。
2. チャイロマルハタは、養殖前期（430日齢まで）には平均全長285mm、平均体重380gに成長し、ヤイトハタと同様の成長をした（図2・3、表2）。
3. チャイロマルハタは、養殖後期（1,035日齢）には平均全長443mm、平均体重1,477gに成長したが、細身体型のため養殖後期に体重増加量に差がついた。（図2・3、表2）。
4. チャイロマルハタは、養殖後期の餌料効率が下がる傾向にあった（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. チャイロマルハタの成長は、マダイ・ハマフエフキに比較すると良いが、ヤイトハタに比べやや成長が遅い。
2. チャイロマルハタはヤイトハタに比べ警戒心が強いため、摂餌状況を確認しながら給餌する必要がある

[具体的データ]

表1 ハタ2種の種苗生産履歴

魚種	チャイロマルハタ	ヤイトハタ
年度	2007	2007
生産回次	1-1	1-4
水槽名	250-2	60-2
卵収容日 (月日)	6. 2	5. 8
取上日 (月日)	7. 4	6. 15
日齢	32	38
取上全長範囲 (mm)	18.0~26.3	17.3~31.5
取上平均全長 (mm)	19.6	24.3
飼育水温範囲 (°C)	27.0~30.4	24.8~29.0
期間平均水温 (°C)	28.8	27.1

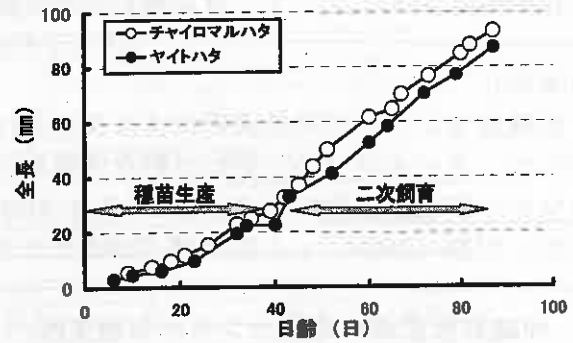


図1 ハタ2種の種苗生産-二次飼育期の成長例

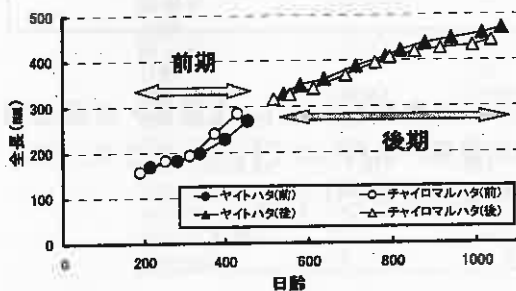


図2 ハタ2種の養殖前期-後期の体長比較

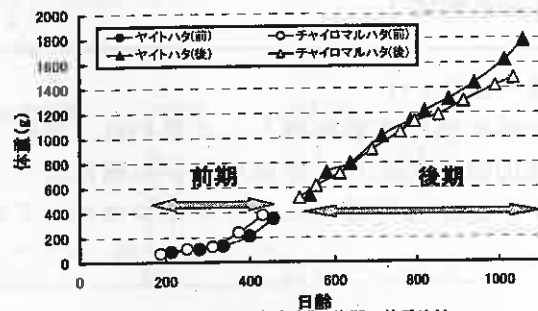


図3 ハタ2種の養殖前期-後期の体重比較

表2 ハタ2種の養殖前・後期試験の結果

養殖期 魚種	前期				後期			
	チャイロマルハタ		ヤイトハタ		チャイロマルハタ		ヤイトハタ	
	開始時	終了時	開始時	終了時	開始時	終了時	開始時	終了時
日齢	188	430	213	455	517	1,035	541	1,059
年月日	2007/12/7	2008/8/4	2007/12/7	2008/8/5	2008/10/31	2010/4/2	2008/10/30	2010/4/1
試験日数 (日)	0	242	0	242	0	518	0	518
飼育尾数 (個体)	278	274	283	268	120	112	120	113
総魚体重量 (kg)	19.6	104.2	24.1	93.7	62.2	165.4	64.6	201.1
飼育密度 (kg/kL)	1.1	5.8	1.3	5.2	3.5	9.2	3.6	11.2
平均全長 (mm)	157	285	169	269	316	443	328	470
平均体重 (g)	71	380	85	350	519	1,477	538	1,779
肥満度	18.3	16.4	17.6	18.0	16.4	17.0	15.2	17.1
給餌量 (kg)		100		93.8		192.9		218.4
餌料効率 (%)		85.4		78.4		57.6		66.2
期間平均水温 (°C)	24.3				24.6			

[その他]

研究課題名：ハタ類の新規養殖適種選定試験
 予算区分：県単（予算額：8,338千円）
 研究期間：平成19～21年度
 研究担当者：木村基文・岸本和雄・狩俣洋文
 発表論文等：